

テーマ “対称性・非対称性” について

1. 生長の家の使命

- ① 立教当初より人間は神の子肉体人間ではなく霊的実在であり、みんな神の生命の兄弟姉妹、地球上の動物、植物、鉱物すべてのものが神のいのちにおいて一体であるから宗教争いをしないで仲良く礼拝し合ひましょう。
- ② 教えの中心部分（基本）は谷口雅春先生—清超先生—雅宣先生—貫して実相は人間神の子完全円満“全てのものは神において一体”“天地一切のものに感謝”“日時計主義”これを継承し実践しながら信仰による世界平和をめざしています。
- ③ 周縁部分の運動は時代応現に変化し H5 年、国際平和信仰運動として唯一絶対の神への信仰に基づき世界平和実現に向けて運動を展開している。
- ④ しかしこの平和は「環境」「資源」の問題と互いに密接に関連していて産業革命以後人類は科学技術を手にし、唯物的人間観に陥り物の豊かさ、便利さ、飽食を求め、効率優先に都会へと移り住むようになった。
- ⑤ それに伴い自分さえよければ生物はどうなってもよいという利己的な肉体人間至上主義、経済至上主義が増え、自然界を人間の利益のために利用する“自然無限論”“自然功利論”の考え方をする人が増えて来た。
- ⑥ 自然破壊は大量生産、大量消費、大量廃棄、エネルギーの消費が増え、化石燃料が枯渇し、地球温暖化・気候変動等の地球問題が深刻化して来た。

2. 21 世紀人類共通の喫緊^{きつぎん}の課題—特に地球温暖化—

- ・自然災害の増大—気象変動、気候変動により洪水、台風、ハイケーン、大雪、等
- ・資源（化石燃料）の枯渇—資源獲得のための戦争、紛争、食糧、水の奪い合い
- ・畜産業による環境汚染
- ・生態系に悪影響（生物種の絶滅危惧）
- ・食生活の乱れ（肉食、飽食）
- ・生命技術の乱用（神の領域をあらす）
- ・世界人口の増大—家族の崩壊、貧困、飢餓、自殺、犯罪、テロ、難民等現在世界平和はおびやかされている。

◎人間は自然の一部であることを忘れ、自然から離れて行った。

3. 原因

- ① 自然と人間の大調和を観ずる祈りの中に我々の本性である観世音菩薩は“人間よもっと謙虚であれ”“自然の一部であることを自覚せよ”“自然と一体の自己を回復せよ”と教えて下さっている。
- ② 人間が自然を敵視すればその迷いの反映として自然界から敵として扱われる事態が生ずる（奪うものは奪れるという法則通り）。人間の繁栄だけを画策してもそれは神の御心ではない。人間の失敗作品であり、業の自壊である。
観世音菩薩の教えを謙虚に聴き、世界の実相の表現に向かって前進するのである。

4、この地球環境問題は宗教心なくしては解決できないとし

◎生長の家は2013年10月国際本部を東京原宿の都会から山梨県北杜市八ヶ岳の自然の“森の中のオフィス”に移転し神、自然、人間の大調和実現に向けて“自然と共に伸びる運動”を展開しています。

◎総裁・谷口雅宣先生はこの時代と環境に応じた次世代への決断「森の中に行く」ことの理由と意義をこの対称性、非対称性論理を使って説明された。

対称性・非対称性論理の意味

現代文明転換への視点で提示した人間の心の持ち方の対比表

		㊶ 自然	㊷ 都会
①	脳の機能	ミラ-ニュー-ロ 右脳	左脳
②	ものの見方	アナログ	デジタル
		包容的	排他的
③	注目点	対称性	非対称性
④	心の領域	潜在意識	現在意識
⑤	判断の傾向	体験優先	効率優先
⑥	環境との距離	環境密着	環境遊離
⑦	エネルギーの増減	減エネ	増エネ

◎この論理は精神分析学者イグナシオ・マテ=ブランコ氏が提唱した論理で人間は物事を見る時、見る対象を大別して2つの固まりに分けて、この二つの間に共通点を見るのが対称性論理で、両者の相違点に注目するのを非対称性論理という。

- ①人類が救われ世界平和が訪れるのは人間の脳に左右の機能があるように㊶の自然と㊷の都会の両方の要素がバランスのとれた社会構築ができた時である。
- ②人間の生き方、考え方を見る時①脳の機能にミラ-ニュー-ロという他人の気持ちを思いやり感情移入したり、自己同一化したり、自他一体感をもったりする神経細胞がある。
- ③宗教の世界はそれが大切でこの働きを“神のみ心” “仏性の表れ”と教えられています。㊶の生活では㊶の右脳を活性化させ、欲求を制御し他と喜びを共有することができるが㊷の生活では㊷の左脳重視の効率優先の生き方となる。
- ④右脳と左脳、田舎（自然）と都会、対称性と非対称性（㊶と㊷）に基づく思考や思想、これら2つが共にバランスよく機能することが大切で㊷に一方に偏ると必ずどこかにシワよせが出てくる。これが地球環境問題である。
- ⑤宗教は本来㊶の分野を担当しているので都会を離れ“森の中”の自然に還りその本来の働きを遂行する。
—21世紀に宗教改革は“森の中”から始まります。
- ⑥だから生長の家としては対称性論理を押し進めて行く決断をした。
- ⑦森の中に行くという事は偏りのない新しい文明の構築をめざします。
=都会の過剰をへらしバランスをよくするため、自然との共存共栄の生活に変える。

⑧現象世界は人間の心の法則（「奪うものは奪われる」「与えるものは与えられる」）が働く。

『大調和の神示』の教えにあるように私達は人間だけでなく天地一切のもの、自然界の生物（動物、植物一切のもの）に感謝し行動をおこす。

⑨ライフスタイルを変え、元々私たちの中にある、仏心、神の子の本心の生き方をし、自他一体の感情を出す。愛の活動、四無量心の実践→「他を生かそう」「自他共に伸びよう」という叫びである。

5. 偏りのない新しい文明の構築をめざすとは

①生長の家は都会③の生活を否定するのではなく都会生活の“過剰”を問題にしている、この過剰部分を減らし不足している自然との一体感を増やして自己の本性である観世音菩薩の教えを聴きながら共存共栄の生活に転換する。

②具体的には、③の左脳偏重の生活→④の右脳を働かせ自然との一体感を回復させ、右脳重視の自他一体感を深める生活の実践 自然と共に生きるライフスタイルに転換する必要がある。

◎自然と調和し、右脳を重視し、包容的なものの見方をし、対称性に注目し、物の共通点を見て、体験優先の生き方をし、都会と自然のバランスの取れた生活環境とする。これが自然と共に伸びる運動である。

③人類が従来の効率優先、欲望優先の考え方から脱却して自然界の万物と共に生かし合い、結び合う生き方をすることによって美しい地球を残し、未来の人類をも幸福になると考えている。

④“化石燃料文明”“地下資源文明”から再生可能な自然エネルギーを基礎とした“自然共生型文明”“地上資源文明”への転換をめざす。つまり、人類が自然への愛を実践して自然と人間が調和した新しい文明を築いて行く。

6. 新しい文明の創造に導く造化の三神・ムスビの原理

テキスト P297～・機関誌 2014年2月号

2015年1月号

◎2014年秋、総本山の龍宮住吉本宮に住吉大神様に加え、・天之御中主大神・高御産巢日神・神産巢日神の“造化の三神”を新たに勧請され住吉大神様と共に祀られた。

①現在は“奪い合いの考え方がまん延し「ムスビ」の働きが忘れられている。

②自然破壊は人間と自然とが対立しており、もっと「ムスビ」の働きを意識の中におき「自然と人間は本来一体」という生活をする。

③今日、都市生活ではムスビ合う関係が忘れられている。

④このために豊かな自然の再構築のために「ムスビ」の神をお祀りし、常に意識し、「与える生活」を実践する。

7. ◎新しい文明の構築とは＝自然を破壊せず幸福を実現する生き方

①2013年10月 国際本部を“森の中のオフィス”に移動し、日本初の“ゼロエネルギービル”を実現し、職場と実生活において自然と人間の大調和（ムスビ）した生き方が実現可能であることを体験し、社会に示して世界に示して行こうとしている⇒自然と共に伸びる生き方によって本来の幸せ、平和を手にする。

②地下資源（化石燃料文明）から地上資源（自然エネルギーを基礎とした自然共生型文明）へ。

太陽光発電、バイオマス発電（地元の木質資源）で電力自給する。

③炭素ゼロ運動に基づき、オフィス運用におけるエネルギー使用量をゼロとする。

（「省エネ」45%と「創エネ」55%の両面で）

④自然破壊しないだけでなく、森林育成などを通して自然をより豊かにし、自然と人間と調和した生活をめざす。
（支えると受けるのムスビの関係）（自然との一体化をめざす）

新しい文明の基礎を築くために

「46億年のいのち」P250

- 三正行の実践
 - 日時計主義
 - 二酸化炭素の排出を減らす生活（省エネ、太陽光、電気自動車、自転車）
 - 地産地消・旬産旬消
 - 農薬・化学肥料を使わない家庭菜園
 - 手作りを楽しむ（食事・保存食も含む）
 - 自分の家庭だけでなく、広く地域、世界の人のためになる愛の行い
- これらすべては、人や自然に与える生活であり、大いなるムスビの働きです。

◎ 「神・自然・人間は本来一体」の信仰をライフスタイルに表現し、新しい文明の基礎を築こう！

8、新しい文明の基礎作りとして低炭素のライフスタイル

◎自然と調和する具体的な3つの方法→ PBS活動

- PBS活動
- 1 ノーミート低炭素の食生活（SNI オーガニック菜園部）
 - 2 省資源低炭素の生活法（SNI 自転車部）
 - 3 自然重視低炭素の表現方法（SNI クラフト倶楽部）

- ・PBS活動に参加しよう！
- ・恵みフェスタに参加しよう！
- ・自宅で友人・知人・家族でミニイベントを開こう！